

第4回日本オープンイノベーション大賞「総務大臣賞」受賞

2022年2月22日（火）に、サービスイノベーション部の池田 大造が法政大学 今井 龍一教授、国土交通省国土技術政策総合研究所 重高 浩一氏、新階 寛恭氏、関谷 浩孝氏と共同で、「携帯電話基地局データから生成される人口流動統計」の功績により、「日本オープンイノベーション大賞 総務大臣賞」を受賞しました。

「日本オープンイノベーション大賞」は、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局が主催し、科学技術イノベーション創出に多大な貢献をし、オープンイノベーションのロールモデルとして期待される先導性や独創性の高い取組みを表彰するものです。「総務大臣賞」は、情報通信技術および消防防災技術の振興の視点から、特に顕著な取組みなどが認められる個人または団体を対象としています。

池田らは、国内最大規模の交通ビッグデータとなる「人口流動統計」を共同開発しました。本技術は、携帯電話基地局の運用データ（基地局で取得される

携帯電話の約7,600万台のサンプルから法人契約を除いて個人情報・プライバシーを保護した所在エリア情報（GPS以外の情報）を活用し、「エリア間の人々の移動量を示す統計値（人口流動統計）」を生成するもので、広域にわたる移動経路・手段別（飛行機、新幹線、高速道路）の移動量を推計します。これにより、1km四方などのエリア間の人々の移動実態を、日本全域で24時間365日にわたり把握できるようになりました。

人口流動統計を活用することで、人流を考慮した感染リスク分析やニュー・ノーマルに応じたまちづくりの統計情報などへの発展が期待され、これからのまちづくり、交通インフラ整備などに役立つポテンシャルがある取組みであることが評価され、今回の受賞に至りました。

本誌に掲載されている社名、製品およびソフトウェア、サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標。



（写真中央）池田

